

環境報告書

2018



株式会社 **アルファ**

報告対象期間： 環境報告書2018の報告対象期間は
2017年4月から2018年3月迄です
(一部後発事象も含め記載しています)

報告対象範囲： 株式会社アルファの環境活動に加えて

グループ企業(国内・海外)の環境活動も紹介しています。

目次

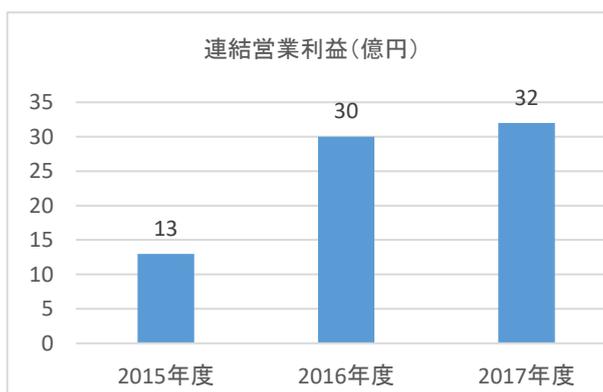
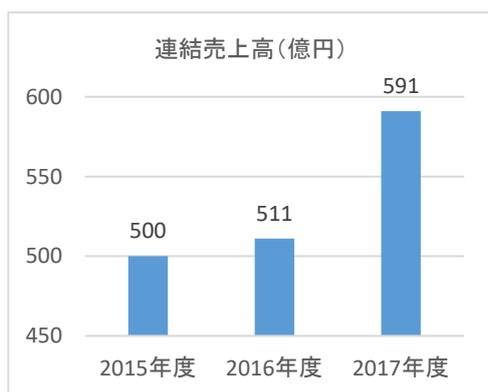
	page
表紙	1
目次	2
1. 会社概要	3
	4
2. 当社の事業	5
3. 当社の生産工程とコア技術	6
4. 環境方針と組織	7
	8
	9
5. 環境パフォーマンス	10 11
	12
	13
6. 環境会計	13
7. 環境への取り組みとトピックス	14
	15
	16
	17
	18
裏表紙	18

1. 会社概要

2018年3月末現在

株式会社 アルファ

- 創業 1923年4月14日
- 資本金 27億6千万円
- 上場取引所 東京証券取引所第一部上場
銘柄名：株式会社アルファCo. 銘柄コード：3434
- 所在地 神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8
- 従業員数(連結) 4,406名
- 事業内容 キー&ロックを中心とした自動車部品・住宅製品・コインロッカー製品の
開発・製造・販売およびサービス・リース・オペレーション
- 事業所 大阪営業所
宇都宮営業所
- 工場 群馬工場
- 物流センター 山梨物流センター
- グループ拠点 国内：3社
海外：15社+2拠点
(アメリカ、メキシコ、中国、タイ、インド、インドネシア、韓国、チェコ、フランス、スイス)
- 売上高・営業利益



(株)アルファ本社

ゴーヤのカーテン(本社ビル)

アルファグローバルネットワーク(グループ企業)

■ 国内(3社)

- (株)アルファロッカーシステム、九州アルファ(株)、(株)アルファエンタープライズ

■ 海外(15社+2拠点)

- 北米: ALPHA TECHNOLOGY CORPORATION(アメリカ)、ALPHA INDUSTRY QUERETARO, S.A DE C.V.(メキシコ)、Alpha Industry Jalisco, S.A. DE C.V.(メキシコ)、ALPHA INDUSTRY PUEBLA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
- 中国: ALPHA (GUANGZHOU) AUTOMOTIVE PARTS CO.,LTD.(中国)、ALPHA (XIANGYANG) AUTOMOTIVE PARTS CO., LTD.(中国)、ALPHA (SHANGHAI) LOCK CO.,LTD(中国)、ALPHA (SUZHOU) VEHICLE SECURITY SOLUTIONS CO., LTD.(中国)
- アセアン: ALPHA INDUSTRY (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)、
 ・インド ALPHA HOUSING HARDWARE (THAILAND) CO., LTD.(タイ)、Bangkok Sales Office(タイ)、
 ・韓国 Alpha Security Instruments (India) Private Limited(インド)、PT.ALPHA AUTOMOTIVE INDONESIA(インドネシア)、ALPHA KOREA Co.,Ltd.(韓国)
- ヨーロッパ: Alpha Vehicle Security Solutions Czech s. r. o.(チェコ共和国)、Paris office(フランス)、Alpha Vehicle Security Solutions Switzerland Sagl (スイス連邦)

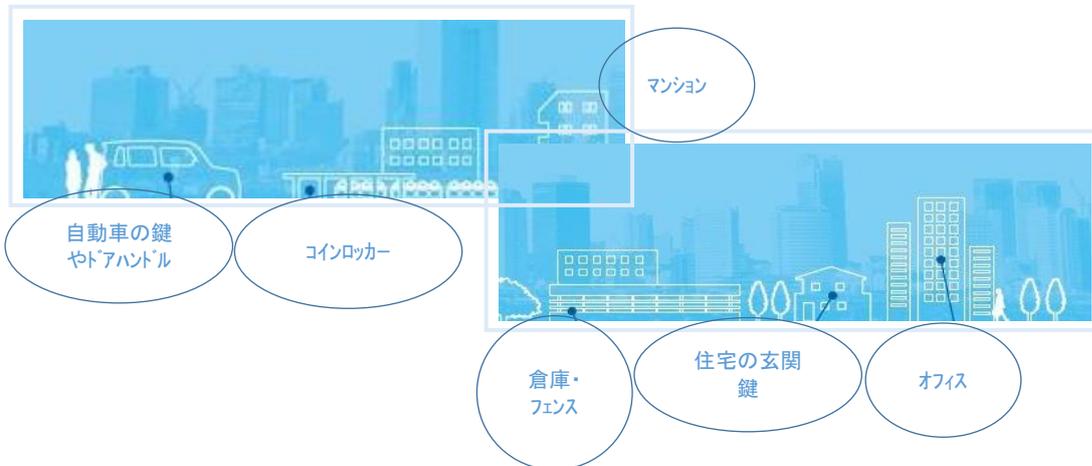


2. 当社の事業

Innovation for Access

当社の使命は、様々なモノにアクセスするところに
変革を生み出し続けることです。

暮らしのそばに、いつも … アルファ



■自動車部品事業

キーセット、ドアハンドル、
インテリジェントキーシステム
光学センサー
車体色塗装 & 樹脂成形部品

■住設機器事業

住宅玄関錠、産業用錠前、サッシ・南京錠などの多様な錠前
ハンズフリー認証、RF-ID認証、電気錠、生体認証、メカ開錠など
多様な認証・メカトロ技術



■ロッカーシステム事業

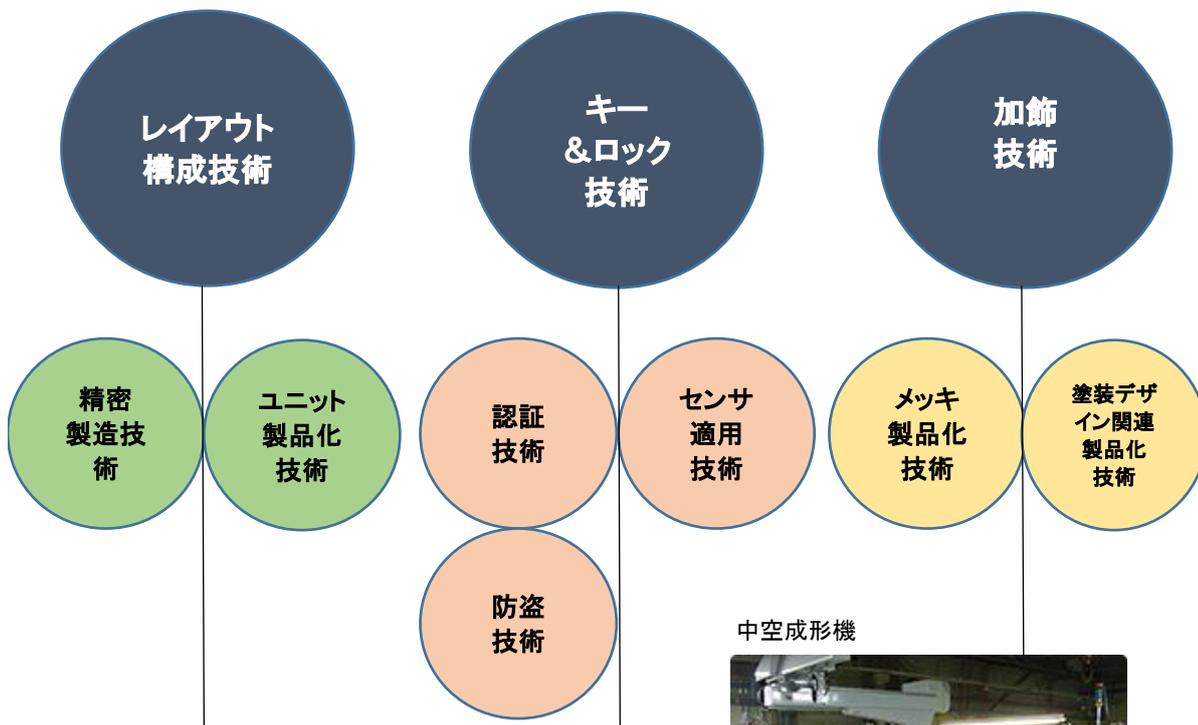
コインロッカー、貴重品ロッカー
宅配・中継ロッカーなど
ICカード電子マネー決済、
生体認証(静脈など)など多様な
メカトロ技術に対応

3. 当社の生産工程とコア技術

主な生産工程



コア技術



HANDLE 自動組立機



中空成形機



全自動静電塗装設備



4. 環境方針と組織

1) メッセージ

当社は、環境マネジメントシステムの取組みとして、環境基本方針をもとに法令順守、地球環境保全への貢献を積極的に行っています。

具体的には、「低炭素化社会」へ向けた取組みとして当社の主要事業領域の自動車部品において、軽量化に向けて継続的に取り組んでおります。

また、当社資産を有効活用し、太陽光発電事業も、2014年12月山梨地区、2016年12月群馬地区の2地域で開始いたしました。

当社は、「Innovation for Access」を企業メッセージとして100年企業を目指して、今後も地球環境問題を人類共通の重要課題として取り組んでまいります。

2) アルファ環境憲章

地球に優しい
アルファづくり。



アルファ環境憲章

アルファは地球環境と人類の幸福を守るためにアルファ全部門の領域において、企業として環境責任の重要性を認識し、環境に優しい企業を目指すべく基本方針を定め、具体的施策を掲げ、実行に努めます。

環境基本方針

1. 環境関連法規制、条例、協定、基準を遵守する。
2. 製品の開発、設計、製造、出荷の各段階において環境への配慮を踏まえた自主的な基準を定め、各部門は責任を持って実行する。
3. 企業として環境保全への取組みは社会的責任と認識し、アルファ全従業員の意識高揚を図る。

3) アルファ環境方針

株式会社アルファ 環境方針

株式会社アルファは、地球環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境に与える影響を配慮し、地球環境の保全に取り組み、再生可能エネルギーの活用と自然との調和を図ります。

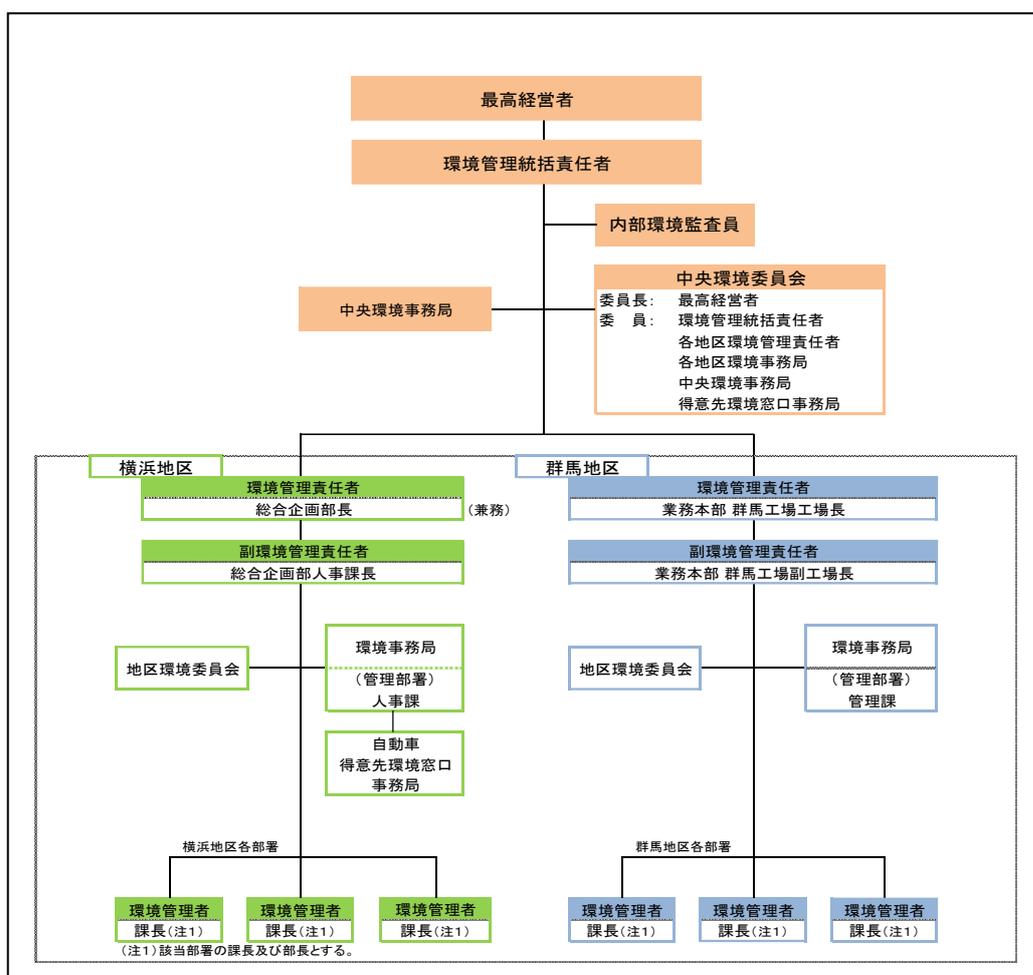
1. 企業活動が環境に与える影響を的確に把握し、環境マネジメントシステムの継続的維持、改善を図り、環境汚染の予防及び防止に取り組みます。
2. 環境関連の法規制及び同意した取り決め事項を遵守します。
3. 環境汚染の予防のため、開発・設計段階から製品のライフサイクルの視点を考慮した製品アセスメントを推進します。
4. 環境目標を設定して全員参加で活動を推進します。具体的活動として、資源とエネルギーの有効利用ならびに廃棄物の削減に取り組みます。また、定期的に環境目標の見直しを実施します。
5. 環境方針を全ての要員に周知徹底し、環境を重視する企業風土を醸成します。
6. 環境方針は、利害関係者が入手可能なものとします。

2017年9月20日
株式会社アルファ

取締役常務執行役員 斉藤 雄一

4) アルファ環境マネジメントシステム組織

下図による(株)アルファの環境組織を核として、(株)アルファはもとよりグループ企業(国内・海外)にも関わりを持ちながら環境活動を行っています。



5) アルファグループ環境認証取得状況



① 国内

会社名	認証名	規格	備考
(株)アルファ	ISO14001	2015年版	支援組織 (株)アルファロッカーシステム (株)アルファエンタープライズ
九州アルファ(株)	エコアクション21	—	

② 海外

会社名	認証名	規格	備考
アルファ広州	ISO14001	2015年版	
アルファタイ	ISO14001	2015年版	2018年更新予定
アルファチェコ	ISO14001	2015年版	2018年更新予定

5. 環境パフォーマンス

1) 2017年度の実績と評価

○	達成率100%以上
△	達成率90～99%
×	達成率89%以下

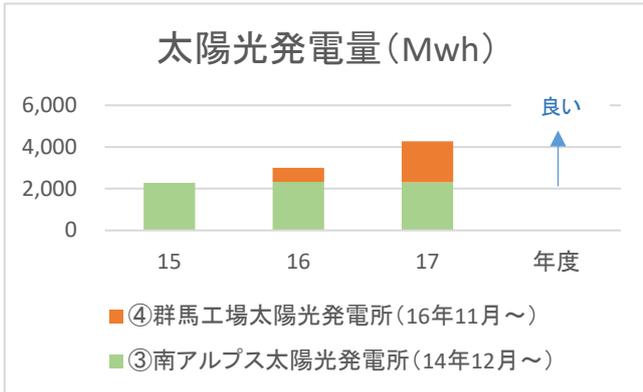
【横浜地区】

重点課題	環境目標	成果	評価
エネルギー使用量の削減	2015年目標値基準(300,000kw/h)を維持する	30.6%削減	○
廃棄物排出量の削減	2015年目標値基準(850Kg)を維持し再利用を推進する	22.8%削減	○
紙類の使用量の削減とリサイクルの推進	2017年目標値(1,652,000枚)	21.6%削減	○
	裏紙の再利用を8%以上とする	再利用率9.2%	○
有益な環境活動の推進	各部署の本来業務に関連したプラスの環境活動を実施する	全部門実施	○
水質汚濁の防止	保管油類の漏洩事故0件を維持する	漏洩事故0件	○

【群馬地区】

重点課題	環境目標	成果	評価
エネルギー使用量の削減	使用電力量を2014年度比加工高原単位で1.0%削減する	5.4%減少	○
廃棄物の削減及びリサイクルの推進	一般廃棄物の排出量を2014年度実績12,000kg以下を維持する	7,280kg	○
	廃プラスチックの96%をリサイクルする	98.9% リサイクル	○
紙類の使用量削減及びリサイクルの推進	コピー用紙の購入量を720,000枚以下に維持する	362,500枚	○
	廃棄紙類の97%をリサイクルする	97.4%リサイクル	○
省エネルギー、省資源を配慮した設備、工程設計	新規導入設備のアセスメントを100%実施する	アセスメント対象となる新規導入設備なし	—
大気汚染、水質汚濁の防止	VOC排出濃度を自主基準(600ppmc)以下に維持する	372ppmc	○
	ムッキ、排水処理工程での漏洩事故発生件数0件を維持する	漏洩事故0件	○

2) 太陽光発電量

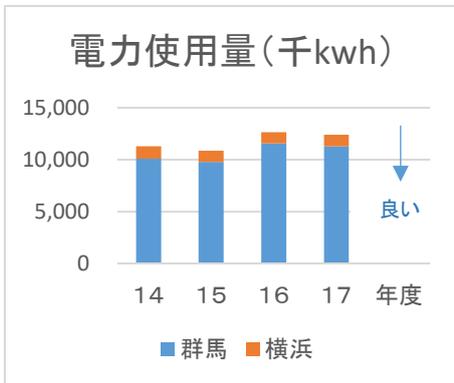


発電所	発電量(Mwh)		
	15年度	16年度	17年度
群馬	—	677	1,961
南アルプス	2,285	2,325	2,319
(合計)	2,285	3,002	4,280

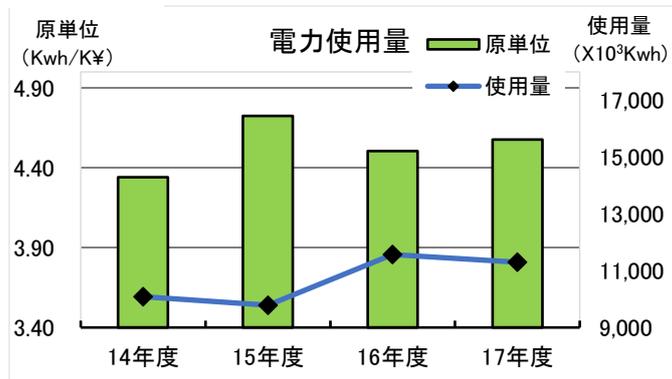
3) 主なエネルギー使用実績

* 群馬地区には国内唯一の工場(群馬工場)があります

(全社)

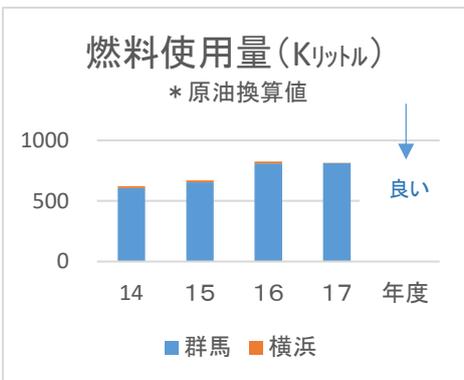


(群馬地区)

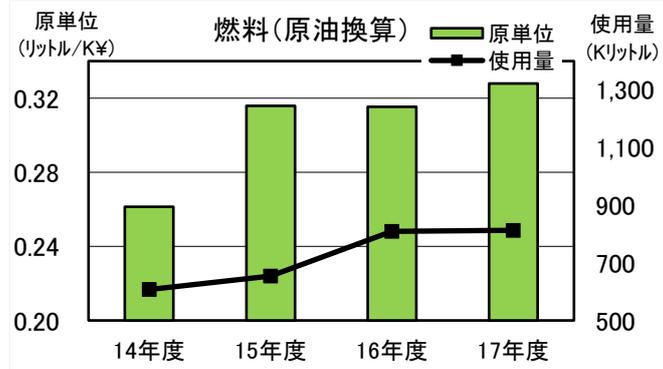


●17年度は得意先事情により業務量減少により電力使用量減少。加工高も減少し。原単位が増加した。

(全社)



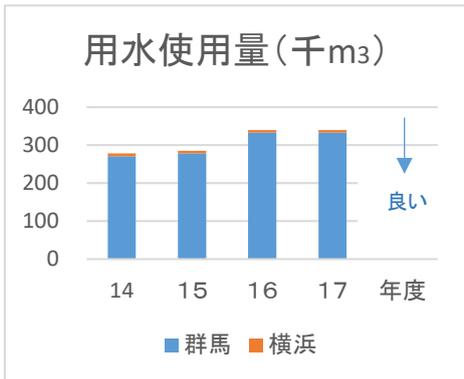
(群馬地区)



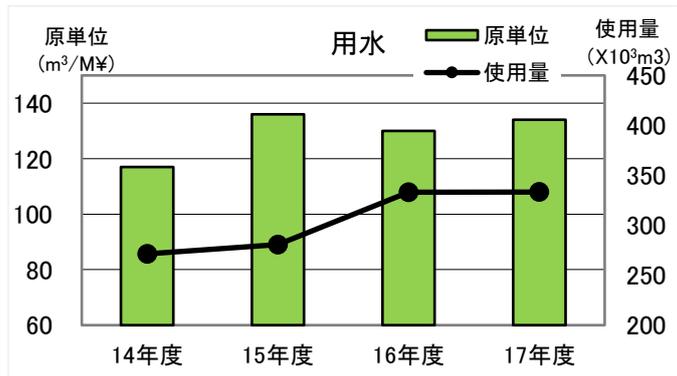
●17年度は電子工場空調機温水ヒーターの稼働台数が増加によるA重油使用量が増加した。(故障中のヒーター2台を修理したことにより、3台がフル稼働となった)

* 群馬地区には国内唯一の工場(群馬工場)があります

(全社)

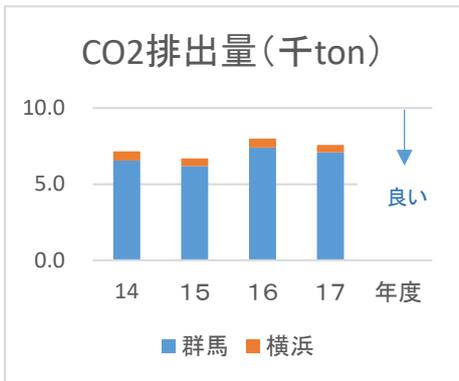


(群馬地区)

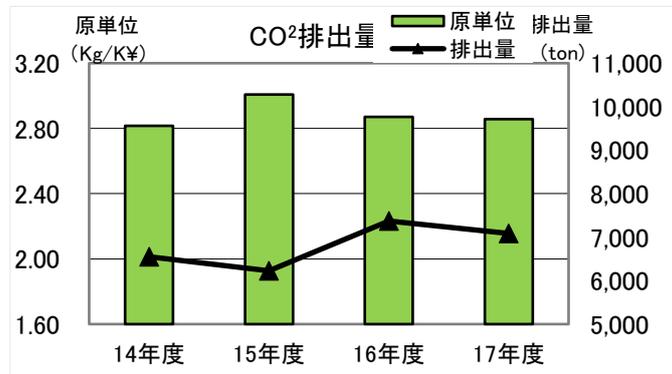


●17年度は業務量減少の為、工業用水と井水の使用量は若干ながら減少。原単位は増加した。

(全社)

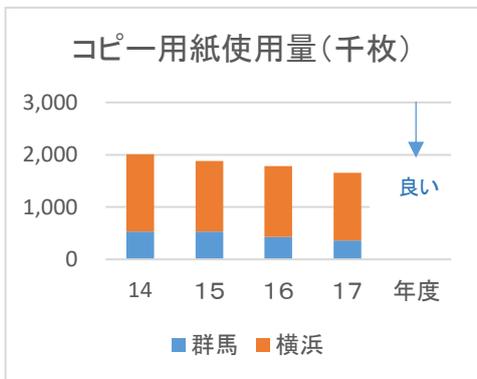


(群馬地区)



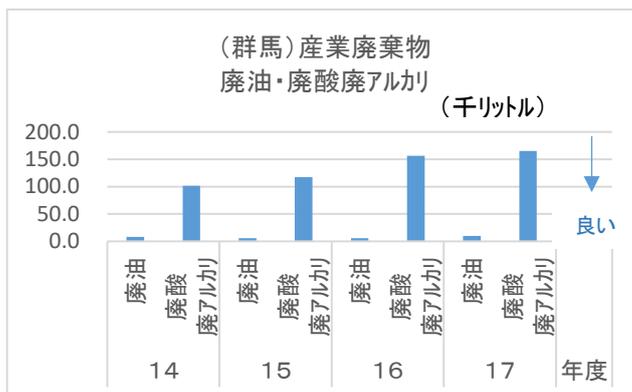
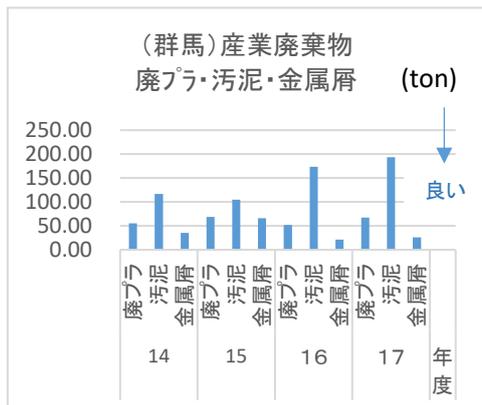
●17年度は業務量減少の為、CO2排出量が減少した。

(全社)



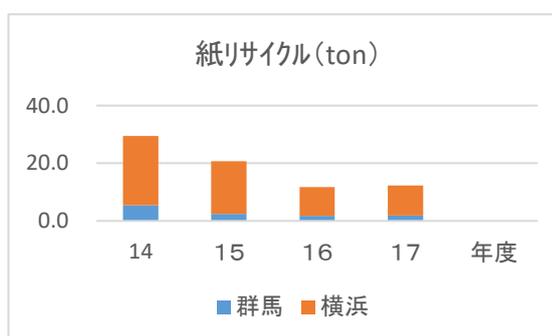
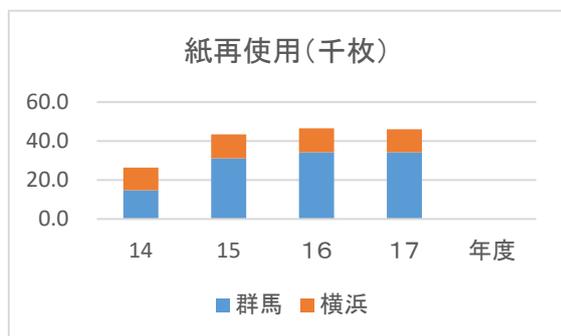
●コピー用紙は業務の特性上、横浜地区が多い

4) 廃棄物等排出量実績



- ①廃プラ～成形パージ材を年度途中から廃プラとして廃棄により増加
- ②汚泥～ムッキ土日フル稼働(海外生産分増)。汚泥が増加
- ③金属屑～鑄造機用保持炉、Crエッチング槽廃棄による増加
- ④廃油～油水分離槽から7,500リットル廃棄(業者都合・リサイクル不可)により増加
- ⑤廃酸・廃アルカリ～ムッキ土日フル稼働。化学ニッケル廃液増加

5) リサイクル使用実績



6) PRTR物質集計結果

有害性が問われる化学物質が、どのような発生源から、どのくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運びだされたかというデータを把握し、集計した結果です。

No	物質No	物質名称	地区	年間取扱量	排出量				移動量	
					大気	公共水域	土壌	埋立	下水道	事業所外
1	53	エチルベンゼン	群馬	3,299	2,600	0	0	0	0	8
2	71	塩化第二鉄	群馬	32,522	0	0	0	0	0	0
3	80	キシレン	群馬	4,698	3,600	0	0	0	0	8
4	87	クロム及び3価クロム化合物	群馬	9,126	0	0	0	0	0	2,700
5	88	6価クロム化合物	群馬	9,127	0	0	0	0	0	0
6	300	トルエン	群馬	10,025	3,400	0	0	0	0	6
7	308	ニッケル	群馬	20,220	0	0	0	0	0	0
8	309	ニッケル化合物	群馬	8,181	0	0	0	0	0	3,100
9	384	1-プロモプロパン (eクリーン21N)	群馬	1,455	1,100	0	0	0	0	0

6. 環境会計

コスト 分類	主な内容	設備投資・費用額(千円)			2017年度 増加理由
		2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	
(事業内コスト) 公害防止 コスト	大気汚染防止、水質汚濁防止、土壌汚染防止、振動・騒音防止、悪臭防止、地盤沈下防止のためのコスト、排水処理費用、浄化槽の保守・点検・監査、防油堤・地下浸透防止工事、環境保全施設・設備の維持・修理費用、水質・ばい煙測定費用等	37,189	41,434	57,277	・メッキ稼働時間増加による監視費用増加
(事業内コスト) 地球環境 保全コスト	省エネ、地球温暖化防止、オゾン層破壊防止関連コスト、省エネ設備の導入・修理・維持、省エネタイプ蛍光灯導入	0	8,915	13,010	・群馬コンプレッサー更新 ・群馬空調機入替え
(事業内コスト) 資源循環 コスト	廃棄物削減、再資源化・リサイクルのコスト、水の循環的利用、廃棄物・廃油の処理・処分のコスト、廃棄物圧縮機械導入費用、ゴミ箱購入費用	30,037	33,999	32,097	
上・下流 コスト	グリーン購入による通常購入との差額コスト、容器包装等の低環境負荷化のための追加コスト、製品・商品等の回収・リサイクル等のコスト、外注先に対する環境活動指導コスト	—	—	—	
管理活動 コスト	ISO維持管理コスト(審査費用、システム維持・登録維持費用)、定期審査費用、管理活動、教育コスト、PRTR等のコスト、汎用計測器類購入・校正費用(照度、騒音、秤、温度計等)、図書、備品類、標識類購入コスト、振動・騒音・悪臭等測定費用	2,892	5,361	16,214	・2015年度版への切替え関連における、内部監査員教育等に関わる費用増加
研究開発 コスト	環境保全に資する製品等の研究・開発コスト、物流・販売段階における環境負荷低減のための研究・開発コスト	—	—	—	
情報開示・ 社会貢献 コスト	自然保護・緑化活動・美化活動のコスト、ポスター等のコスト、環境報告書作成費用等環境情報開示コスト、環境広告のコスト	110	80	151	・環境関連情報収集
環境損傷 対応コスト (環境修復 コスト)	自然修復のコスト、環境保全に関する損害賠償等のコスト	—	—	—	
総計		70,228	89,789	118,749	

7. 環境への取り組みとトピックス

1) 環境マネジメント

株式会社アルファは、環境教育、監視・測定、環境関連法規等の順守、コミュニケーション、社会貢献活動などの環境マネジメントのサイクルを実行、回しています。

① ISO14001更新審査(2015年版へver. UP) 2018年4月12日～13日

アルファでは、2004年10月から全社統一の環境マネジメントシステムを導入し、全社を統括する中央環境委員会を中心に環境改善活動を推進しています。2015年4月に5回目の更新審査を受審して資格を更新、毎年定期審査を受け2018年には、ISO14001 2015年版への移行審査を受審し、継続した環境活動を行ってきました。地区固有の問題、地域とのコミュニケーションは、地区の環境委員会で活動を進め、本来業務に密着した活動にも積極的に取り組み、グローバルな組織体制を整備しつつ、環境活動を推進していきます。



群馬地区:ISO14001更新審査
テクニカルセンター1F性能試験室の確認

② 環境教育: 内部監査員教育

ISO14001の適用規格変更(2015年度版へ)もあり、その内容の周知も狙いのひとつとして、内部監査員の教育を実施しました。当日は模擬訓練も入れて多くの内部監査員が参加し、新規格の内容共有もはかることができました。

教育実施日 (横浜地区) 4日間: 11/21、12/21、1/11、2/1
(群馬地区) 4日間: 10/10、10/26、12/14、12/28



群馬地区での内部監査員教育

③ 監視・測定: 定期的実施

工場から排出される排気、排水、振動や地下水等の監視・測定は計画に基づき定期的実施し環境汚染の防止につとめています。法的に必要な測定項目については、公的測定機関に委託し、測定結果の完全性、中立性、合理性を確保しています。

70浄化槽11条検査中



2) トピックス

① アルファ国内 群馬・山梨 太陽光発電

当社では、日本国内2か所で、太陽光発電事業を行っています。
2014年12月に山梨県南アルプス市に、2016年11月に群馬県館林市に太陽光発電所を設置し、稼働しております。
当社の太陽光発電所の2017年度総発電量は4,280Mwh、CO2削減量に換算すると194 tとなります。
この発電量は(株)アルファの国内生産等に使用する総電力の1/3以上に相当します。
無尽蔵かつクリーンな太陽光エネルギー、この地球環境にやさしい太陽光の発電をアルファは今後も継続していきます。



南アルプス太陽光発電所



群馬太陽光発電所



リアルタイムで発電量がわかるモニター
(本社1F受付に設置)

② アルファ広州(中国)で環境関連設備(メッキ、塗装)を導入

アルファ広州では従来から、環境を考慮した設備の導入を順次進めています。
メッキ排水リサイクル設備、コンプレッサー油水分離設備、塗装工場排気処理設備、
メッキ排水オンライン監視装置など、2012年から現在に至るまで様々な設備が
新規に稼働を開始しています。特にメッキ排水リサイクル設備と塗装工場排気処理
設備は環境影響に大きな成果を上げることができました。現在も変化する環境規制等
に適合すべく、様々な角度から新規の検討を行っています。

■ メッキ排水リサイクル設備： 2012年導入。メッキ排水総量の30%以上をリサイクル
しています。

■ 塗装工場排気処理設備： 2014年導入。従来は直接大気中に排出していましたが
排気処理設備を導入し、水幕、活性炭装置等を通して
排出しています。



メッキ工場排水リサイクル設備



塗装工場排気処理設備

③ アルファハリスコ(メキシコ)の環境活動

アルファハリスコはアルファグループ北米内のクロムメッキ主力生産拠点です。設立から6年を経過し、環境への取り組みも徐々に進めています。

- 環境影響が大きいメッキの排水は日々厳重に管理されています。その証として「メッキの排水を使った水槽」を設けて、鯉を飼い、そして育てています。
- 会社内の社庭に植樹の一貫として「ハカランダの木」を植えました。メキシコの桜とも呼ばれていて、春には薄紫色の花を付けます。
- 社員の子供達から「環境保護テーマのポスター募集」を行っています。社員はもとより、家族も含めた環境意識の向上をはかっています。

ALPHA INDUSTRY JALISCO



メッキ排水を使った水槽で飼い、育てている鯉



植樹したハカランダ(メキシコの桜)の木



社員の子供達から環境保護テーマポスター募集

④ JAC Recruitment(取引先: 人材紹介企業)を通じた地球環境への貢献

「1件のご紹介(中途採用実績)が、1本の苗木となり、地球の未来を育む」
JAC Recruitment～中途採用1人につきインドネシア・バリ島に苗木1本植樹しています。

(2017年度実績: ㈱アルファはJAC Recruitmentを介して2名の中途採用を行いました)
取引先を通じて、間接的に地球環境に貢献しています。



JAC Recruitmentの
ホームページより
転載(インドネシア植樹)

⑤ アルファ製品 ～ 環境への取り組み

環境への貢献活動のひとつとして、CO2排出量削減に向けて2017年度も当社で利用する「宅急便の利用回数削減」に取り組んでいます。2017年度は前年対比8.1%減となりました。

また数年来、社会問題となっている宅配物再配達削減に関して、当社グループ会社の製品であるICカード対応コインロッカーに「宅配物受け取機能」を加えることによって再配達削減・CO2排出量削減を実現すべく各所で実証実験を継続しています。同様に、戸建・賃貸住宅向けの宅配ボックス(ed-CUBE)を当社で開発し、2018年9月から発売開始されます。

また、当社グループで生産している貴重品ロッカーについても、従来は預け入れ後に扉番号のレシート(紙)が出されていましたが、その後、静脈認証による貴重品ロッカー・貴重品ロッカーが開発・発売され、預け入れたお客様が扉番号を意識することなく開錠できるため、レシート不要となり、「紙の削減」を実現することができました。



戸建・賃貸住宅向け
宅配ボックス(ed-CUBE)



静脈認証
貴重品ロッカー



静脈認証操作部

⑥ 体質改善推進～環境影響改善

当社は、日本の群馬工場を含めたグループ会社も巻き込んだ体質改善活動推進しています。大きな柱となるのは「仕損品削減」と「在庫削減」です。

特に「仕損品削減」に関しては、2017年度もグループ全体で大きな成果を上げることができました。

このことは、収益向上へのインパクトはもちろんですが、加えて、仕損品を削減することにより、環境負荷軽減に貢献していくことも大きな目的に位置付けています。

【仕損品削減 → 製造工程の歩留り向上 → 代替品製造減少】
によって、環境に影響する

- 産業廃棄物の削減
- 使用電力量の削減
- 使用水資源量の削減
- 代替材料削減 などの効果が考えられます。

2017年度は、前年度比33%の削減を行い、基準年度(2014年度)に対しては49%の削減・約半減となり、今年度も更なる削減に向け活動を継続しています。



グループ体質改善推進の核となる
当社の群馬工場



この環境報告書に関するお問い合わせ先

株式会社アルファ 総合企画部
〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8
TEL: 045-787-8400 FAX: 045-787-8425
URL: <http://www.kk-alpha.co.jp>
E-mail: environ@kk-alpha.co.jp

発行: 2018年6月 次回発行: 2019年6月

「環境報告書2018」は、環境に配慮し、電子媒体での開示としました